
殺人アパート

龍狼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺人アパート

【Zコード】

Z9535C

【作者名】

龍狼

【あらすじ】

不動産の窓に貼られてある物件と一緒に小さなメモ用紙が貼られていた。そこには、一週間アパートに住むだけのアルバイトを募集しているらしい。そのバイトは、死者もでるらしいが…。はたして、バイトを無事に終わらせられるのか?

第一話 謎のバイト

俺は、漫画喫茶に住んでる。日払いバイトでその日を暮らしている二ートだ。

毎日不動産の物件を見るのが癖になってきた。
アパートやマンションの物件を見ては住んでいる気になれるから。
いつものように物件を見ていると、とても小さなメモ用紙の貼り紙を見つけた。

そこには、手書きで

【アルバイト急募！－週間アパートに住むだけのバイトです。詳細は店内で。】
と、書かれていた。

椅子ではなく普通に寝られる場所が欲しかった俺はやるうと思つた。

不動産の玄関を開ける。

中では、電話の応対をしている人やセカセカとパソコンと向き合つてている人がいる。

目が合つても『いらっしゃいませ』の一言もない。

そんな人達の目は真っ赤に充血し、焦点は合つのかと心配するぐらい目がキヨロキヨロしていた。

奥のドアから店長らしき人が現れ、俺を見ると小走りでやってきた。

「いらっしゃいませ。この度は、どのような物件をお探しですか？」

「バイト募集の…」

と言つた途端、店内の社員は皆手を止めて俺を見た。

「ああ、バイトの方ですか。それでは、いらっしゃいませ」

そういうと、奥の部屋に案内された。

部屋に入るまでの間、皆俺から視線をはずさなかつた。

「 わあ、いひひへひひわ」

店長と向かい合わせに革張りのソファに座る。

「 私、店長の大黒です」

「 あ。俺、いや…自分、麻生と申します」

「 麻生さん。あなたは、死ぬ氣でバイトするありますか?」

唐突な質問に返答に困り黙りこんでしまつた。

こつこつの場合、嘘でも『はい』と答えるべきなのだろうが先程の社員の態度が気に掛つた。

「まあ、死ぬ氣がないなら帰つた方がいい」

そういうと、店長は自分の席であるひつ高そうな社長椅子に帰つて行つた。

「あ、あります!」

本音はバイトぐらいで死にたくはない。

俺はアパートで横になつて寝れるならといふ嘘をついてしまつた。

「 本当ですか?」

それでも、店長は疑問気味に問いかける。

もしかして、バイトを雇いたくないのかともとれる。

「はい。本当にあります」

「それでは、バイトの話を致しましょう。少々お待ちください」
そういうと、店長は机から書類を取り出しごちらに笑顔で向かって
きた。

「それでは、まず書類に目を通してください」

書類の内容は、一週間アパートから外には出られない。その間の食
事は用意される。そして、アパートでの死は責任とれません。と、
いう内容だ。

「何か質問はありますか？」

「死の責任はとらないというのは……」

「それは、今から住んでもらうアパートなのですが、自殺者が出来
ました。まあ、人が住んでも大丈夫なのかを調べてもらうバイトなも
ので……アパートで死んでしまうと靈の仕業という事にしたいのです」

「それで、バイトで死んだ人は……？」

「いますよ。…クックック…どうしますか？」

何も答えられない。こんなに悩んだのは久しぶりだ。

「死ぬ気がないならやめときなさい。その代わり、生きて帰る事が
出来たら50万円。もしよろしければ、これからで社員として働く事
もできます。どうですか？」

50万。そして、社員……死ぬ確率もある……。

「あのね、Jリの社員の方畠田が赤いですね？」

「お気付きになられましたか。クツクツクツ……皆、サッカーが好きなので朝まで起きて応援したのではないでしょうか」

「そうですか。バイトやる事にします」

「それでは、Jリサインを」

店長は満面の笑みで著名欄を指した。

「ありがとうございます。それでは、携帯をお預かり致します」

「え？」

「外部との連絡は一週間我慢していただきます。書類にも記していますが……」

書類とこうのはは落とし穴がいくつもあるものだ。渋々携帯を取り出す。

「それでは、アパートに行きましょう」

「こうして、俺の一週間が始まる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9535c/>

殺人アパート

2010年10月11日19時29分発行